

<全体分析>

試験時間

90分

解答形式

すべてマーク式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

2023年度はPart I のText I～IIIの本文の合計語数が1,327で、2022年度の1,311とほぼ変わらなかった。

出題の特徴

Part I～Vの5題構成に変化はない。PartIVでは、「論理クイズ的な問題」と「計算を要する問題」が出題されることが多いが、2021～2023年度と続けて、計算が必要な問題は出題されなかった。

その他トピックス

PartVでは、2022年度ではSection A～Cの3つに区分され、Section Bでは語彙だけでなく熟語表現も問われていたが、2023年度はSection AとSection Bの2つの区分になり、加えて語彙だけの問題であった。2023年度のSection Bは、2年連続で選択肢に単語をそのまま見せる形式であるが、これは2015年度まで出題されていた形式と同じである。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「気候変動のリスク評価をめぐる仮説」 (1,327 words)	内容一致、同意表現選択、段落構成。Text I とその内容に関連した2つの短い文章(Text II・III)という構成、および本文の内容から論理的に推論させるものや、3つの文章をリンクさせた形での内容一致型の設問は、この学部独自のものである。	標準
II	文法・語法	語句整序	文章中の5つの空所での語句整序問題。選択肢を利用しながら正しい文を考えることが重要。2、4、5はandが結ぶものを考えるのもポイント。	標準
III	文法・語法 その他	A 空所補充 B 文整序 段落整序	文章中の空所補充。冠詞など基礎的な文法力や語彙力が問われている。 まず、6つの文を並べかえて1つの段落をつくり、次に、その段落と残りの4つの段落を並べかえる。 解答の選択肢はそれぞれ4つずつしかないので手がかりとなる。指示語や論理標識もヒントになる。	やや易 やや易
IV	その他	A 内容一致 空所補充 B 内容一致	「論理クイズ」的な要素のある問題。 A では、まず「生存者バイアス」が説明され、さらに続けて英文が与えられ、その内容の理解ができていないか、加えて前述の内容の当てはめができるかを問うもの。 B では、汚染によっておこる損害を数式でモデル化して説明する英文と図が与えられ、その内容の理解が問われている。図の中で表現された内容を問うものも出題されている。	標準 やや易
V	その他	共通語補充	A は、定義に続く2つの例文の空所に共通する単語を答える問題。書き出しの1文字が与えられている。思い浮かんだ単語の文字数から考えるのも手である。 B は選択肢に単語をそのまま見せる形式の共通語補充。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

出題形式が多様でしかも独特であるのがこの学部の特徴なので、過去問対策は必須である。読解問題では、文意を論理的に読み取る読解力が求められる。文整序や段落整序も出題されるので、文相互や段落間のつながりを意識して読むことを学習に取り入れておくとよい。また、共通語をはじめ、語彙の知識を問う設問も多いので、単語やイディオムの意味・用法をきちんと習得しておくことが必要である。